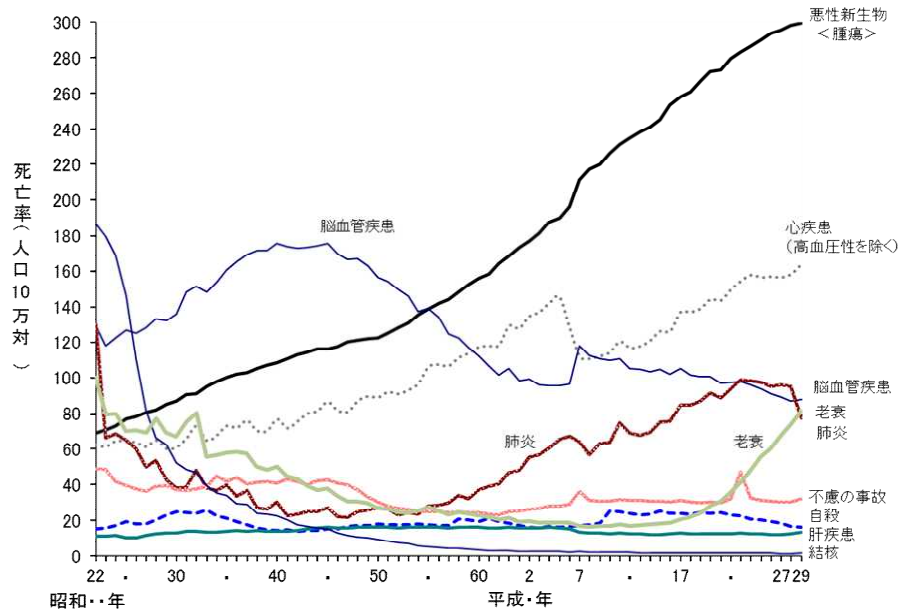


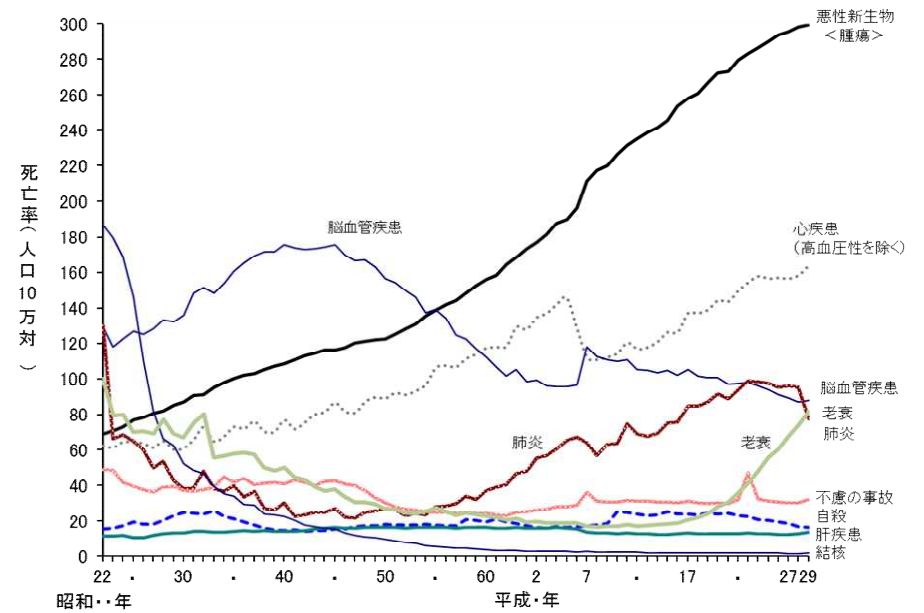
図6 主な死因別にみた死亡率(人口10万対)の年次推移の脚注(3)

【誤】



- 注：1) 平成6年までの「心疾患(高血圧性を除く)」は、「心疾患」である。  
 2) 平成6・7年の「心疾患(高血圧性を除く)」の低下は、死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月施行)において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 3) 平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、[ICD-10\(2008年版\)](#)(平成7年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。  
 4) 平成28年の「肺炎」の低下の主な要因は、[ICD-10\(2018年版\)](#)(平成28年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

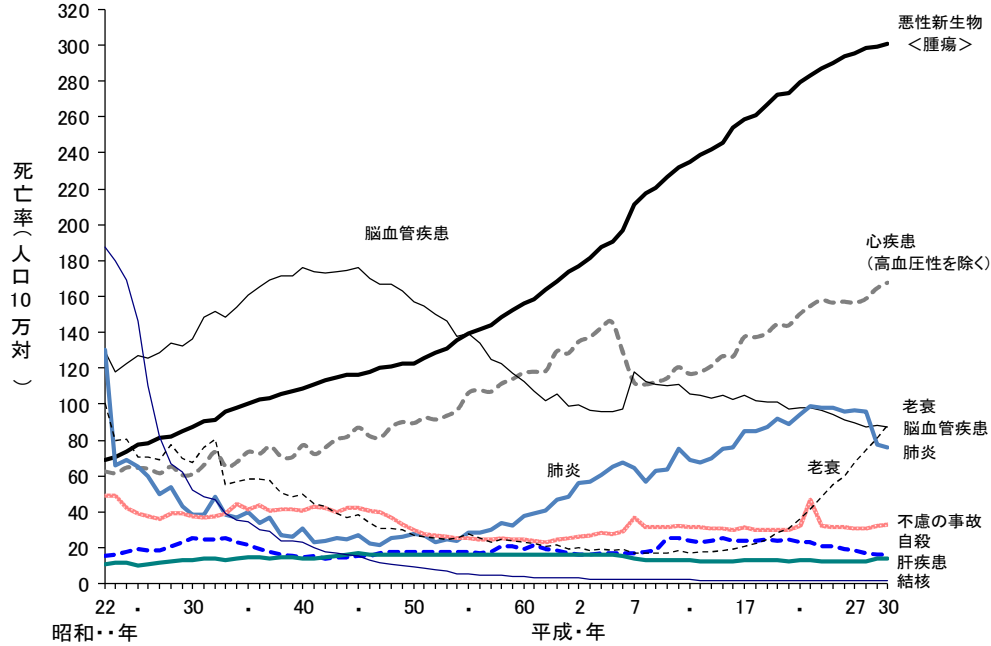
【正】



- 注：1) 平成6年までの「心疾患(高血圧性を除く)」は、「心疾患」である。  
 2) 平成6・7年の「心疾患(高血圧性を除く)」の低下は、死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月施行)において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 3) 平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、[ICD-10\(平成7年1月適用\)](#)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。  
 4) 平成28年の「肺炎」の低下の主な要因は、[ICD-10\(2018年版\)](#)(平成28年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

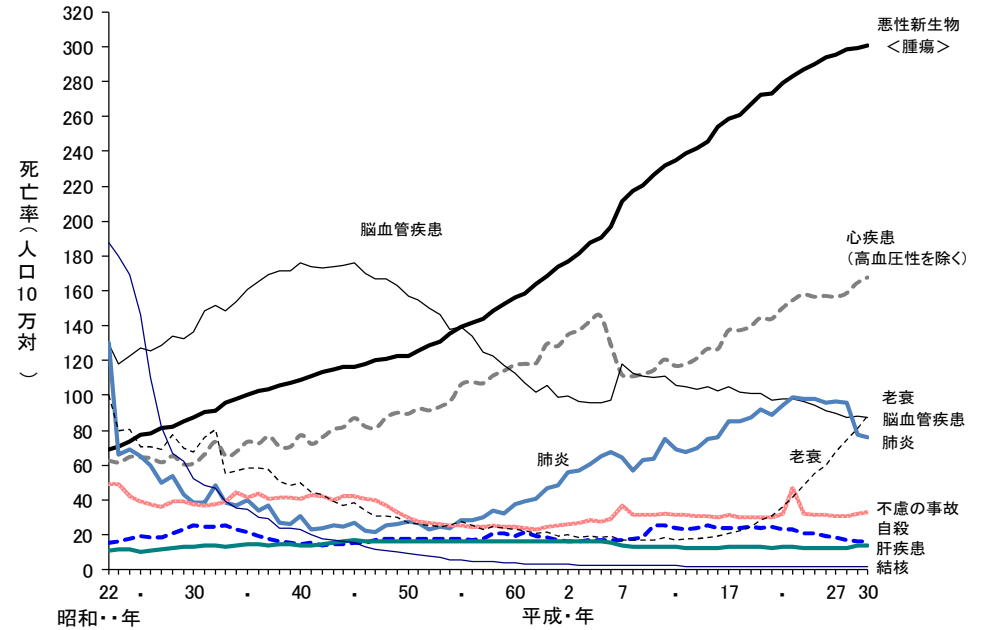
図6 主な死因別にみた死亡率(人口10万対)の年次推移の脚注(3)

【誤】



- 注：1) 平成6年までの「心疾患（高血圧性を除く）」は、「心疾患」である。  
 2) 平成6・7年の「心疾患（高血圧性を除く）」の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 3) 平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、[ICD-10 \(2003年版\)](#)（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。  
 4) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、[ICD-10 \(2013年版\)](#)（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

【正】



- 注：1) 平成6年までの「心疾患（高血圧性を除く）」は、「心疾患」である。  
 2) 平成6・7年の「心疾患（高血圧性を除く）」の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 3) 平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、[ICD-10](#)（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。  
 4) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、[ICD-10 \(2013年版\)](#)（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。